

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立沼津視覚特別支援学校 P T A
学校名	静岡県立沼津視覚特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設置部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	23人

1. 使用状況

寄贈物品名	ゴールボール用 ゴール
使用学年及び人数	中学部、高等部の全学年(9人) 及び 施設開放による卒業生ゴールボール競技チーム
使用頻度	9月末から11月末まで設置、週3回体育の授業で使用
使用状況	常時設置できないため、9月末から11月末に本校体育館に設置している。 体育の単元として行なう9月末から11月末までは中学部高等部の全員が週3回の体育の授業で使用している。 また、施設開放で本校体育館を利用する卒業生を中心としたゴールボール競技チームが、月に一度程度、利用している。常時設置でないため、毎回組み立て・設置・分解・片付けを行う予定である。
物品の使用による変化や効果	昨年度はコロナ禍のために中止された中部地区盲学校ゴールボール大会が、今年度は11月13日(土)に岐阜で実施された。それに向け、体育の授業に集中して取り組んだ。寄贈していただく以前は、実物がない状態で練習し、大会当日、会場で初めてゴールボールの本物のゴールを触ることになっていた。実際のゴールを用いて練習できるようになってから2年経ち、ゴールポストを利用した位置確認や動きがスムーズとなり、生徒の動きがよくなつた。また、より高度な練習が可能となった。その結果、女子は準優勝、男子は3位の成績を収めることができた。 授業以外では、卒業生チームとの交流会を含め、視覚障害スポーツの代表でもあるゴールボールの普及に貢献していくと考える。
今後の活用の見通しや課題	今後も毎年必ず授業で活用していく。 課題としては、設置が大変なことである。ゴールは、選手が体ごとぶつかったり、とても重いボールが当たったりと、かなり大きな衝撃を受ける。その衝撃に耐える強度を維持するため、とても重い。また、横幅9mと大きく、その組み立て・解体には人数だけでなく時間も必要となる。簡単に設置と片付けができないため、授業としては使用時期が限定されてしまう。昨年度、設置したまま半年間継続利用したが、耐久度に問題はなかった。今年度の2ヶ月間も担当教員が慎重に組み立て・解体を行なったため問題はない。今後、施設開放では、毎回組み立てる予定である。組み立て・解体の回数が増えることで、接続部の耐久性にどの程度影響するか、利用していくながら注意していく必要がある。
その他 希望や所感など	

2. 活用の様子

goalball01.JPG



goalball01.JPG

中高の体育の時間で、ゴールボール大会に向けて試合形式の練習中。相手チームから来たボールを止めるために、体を壁にしてブロックしている。

競技中はアイシェードと呼ばれる、目隠しを付けるため、すべての選手が見えない状況になる。その中で、自分の位置を確認するには、すべてのラインテープの下に入れられた糸を触って確認するか、ゴールに頼るしかない。ゴールはとても重要なランドマークとなっている。

goalball02.JPG



goalball02.JPG ~ goalball04.JPG

ボールをキャッチした後、すぐ後ろに下がり、ゴールに背中を付け、自分の向きを確認する。そのまま投げるのが初級である。しかし、練習を重ねることで、ゴールのクロスバーを頼りに味方同士でボールを受渡し、敵にボールの位置を勘違いさせることもできるようになった。

goalball03.JPG



goalball04.JPG



goalball05.JPG



goalball05.JPG

相手の反則によるペナルティスローでは、ゴールを背に選手3人が中央に集まり、誰がどこから投げるのかわからないようにしている。もちろん、その後自分のポジションに戻るため、ゴールは重要なランドマークとなっている。